

篠山層群脊椎動物発掘調査

2006年に兵庫県丹波市山南町の篠山川河床に露出する下部白亜系篠山層群（約一億一千万年前の地層）から恐竜の化石が同市在住の村上・足立両氏によって発見されました。この発見以降、丹波・篠山両市に分布する篠山層群からは恐竜等の脊椎動物化石が多数発見・発掘されており、その量と質は国内トップクラスです。これら脊椎動物化石の中には世界的に見ても貴重ものが含まれており、前期白亜紀の東アジア沿岸部の古環境・生物相を教えてくれる貴重な情報源です。

最初に恐竜の化石が発見された丹波市山南町の発掘現場は掘削深度が大きくなりすぎたため現在発掘は行われていませんが、発掘に参加したボランティアの方々や地元の小中学生などにより篠山層群の新たな化石産出地点が他に5か所発見されています。本プロジェクトでは、これら化石産地を地元の方々のご協力を仰ぎながら順次発掘調査して行きます。

発掘された化石から丁寧に岩石を取り除く作業（クリーニング作業と言います）も本プロジェクトの重要な部分です。こうした地道な作業が行われてはじめて、学術研究、博物館における展示、アーティストとともに作成する恐竜の復元画・像の素材等に、化石は利活用可能となるのです。



丹波市山南町における発掘調査



県立丹波並木道中央公園における調査



篠山層群産哺乳類ササヤマミロス・カワイイ



篠山層群産トカゲ類パキゲニス・アダチ



篠山層群産竜脚類恐竜タンバティタニス・アミキティアエの尾椎



篠山層群脊椎動物発掘調査事業

代表者：三枝春生

分担者：池田忠広・佐藤裕司・半田久美子・古谷 裕・菊池直樹

協力者：丹波市、篠山市、丹波県民局の関係者、恐竜等研究・

アート関係者

財源：恐竜関係予算、科研費